

わの街 はたまち

基本構想（案）

第3訂版

能代市畠町第一地区再開発準備組合

わの街 はたまち

基本構想（案）

畠町第一地区再開発準備組合

はじめに

我々畠町第一地区再開発準備組合は、老朽化した連鎖型の建物を取り壊し、更地化し、再開発に向かうことを令和 2 年に決議し、協議会を結成いたしました。さらにアンケート調査を実施し関係者の皆様の意思を確認し、令和 3 年に準備組合を設立し、今日に至りました。畠町地区での協議開始から 4 年がたちます。コロナ渦の中、これまでに様々な形での勉強会を数多く開催しました。今年 7 月からはワークショップを開催し、市民の皆様のご意見・ご要望をお聞きすることも出来ました。基本構想をまとめる材料は出揃ったと考えます。

私たちは、「**“わ” の街 はたまち**」を基本コンセプトとし、地域特性を重視した 3 つの視点から基本構想を考えます。

- 1、エネルギーの街
- 2、木の街
- 3、景観の街

地球規模の気候変動により、世界の価値観が大きく変わりました。脱炭素社会や SDGs などこれからの社会の大きな課題です。翻って日本では人口の減少・高齢化など特に能代市のような地方の町は、未来図を描きにくくなっています。私たちの新しい街づくりが、このような大きな課題と向き合えるものになりたいと考えております。

基本理念 “わ” の街（共助）はたまち

能代市の将来ビジョン“わ”のまち能代の実現に向かって、畠町の一角でもその実現に協力するためのまちづくりの基本理念といたしました。

“わ”とは調和し穏やかな和、活力の環、将来への架け橋の輪であります。また、“和”は聖徳太子の17か条憲法の「和をもって貴しとなす」の第1条でもあります。ひとが集まり、調和する場、そのための共助で一致団結し、この目標の実現に向け、まちづくりをすすめてまいります

1, エネルギーの街

能代市は紛れもなくエネルギーの町です。新しい街づくりにはできうる限りの自前のエネルギーを活用したいと考えております。太陽光発電・地中熱ヒートポンプ・バイオマス給湯などを活用し、エネルギーセンターを作ります。脱炭素社会やSDGsにもかなうものと信じております。各家庭や施設の電力料金無料化ないし、低価格のエネルギー利用をめざします。

2, 木の街

『木都能代』地球温暖化による、脱炭素社会の構築は「待ったなし」です。それに伴い植物としての木や建築材料としての木材の価値が大きく見直されております。能代にこそ木材のビルが必要なのではないかと考えます。純木造または限りなく近い4F～5F建ぐらいの木質集合住宅を建てようと考えております。

それは木都能代の総力を挙げたシンボルとして、将来にわたり、歴史を思い起こすことでしょう。

3, 景観の街

能代市は景観に恵まれております。北に世界遺産白神山地・西に日本海・広大な砂防林・洋上と陸上に風力発電の風車・米代川。夏の七夕イベントや花火、幸いにも畠町地区は市街地の中でも高台にあり、3・4Fからでも雄大な景観を堪能できるのです。この隠された景観は現状、潜在的に大きな観光資源でもあります。自然と近未来が合体した景観です。

新しい街並みを考えてみると、どんな想像が浮かびますか。ヨーロッパの街並みですか、日本の大都会の街並みですか、違うような気がします。新しい「能代モデル」とでも呼べる気がしています。

4, 具体的な施設事例案

畠町は能代山本地区の中でも中心的な商業地でした。時代の変遷とともにその役割は低迷しております。こうした歴史を踏まえ、私たちは街の中心にあるこの町の機能を維持、向上させながら、さらに高度に活用するためには、新しい機能を創出した居住区域としての再生が望ましいと考えております。その実現のための現状の課題は、空き地・空き家そして住民の高齢化です。

そこで、子育て世代と高齢者世帯の共助をメインにした集合住宅を中心に据えたコミュニティをデザインしたいと考えております。子育て支援のための施設（クリニック・託児所・コンビニ・ドラッグストア・学習塾等）そしてきめ細やかな市民の交流施設・憩いの施設など1Fや2Fには現在あるお店や新しく必要なお店・活力あるコワーキングなど、3F以上は集合住宅です。

景観の良い最上階は誰でも立ち寄れる公共性のある施設や郷土資料展示館カフェなどを検討、全体として住民一体となった共助の町を目指します。子供を見守り地域で育てます。安価で便利で快適でちょっとオシャレなライフスタイルを提供できるように努めたいと考えております。

5, むすびに

私たちはこれまでの学習の時間に多くのことを学びました。例えば、緑地・マルシェ・ホテル・高齢者施設などなど必要な施設、欲しい施設はたくさんあります。が現状の再開発を目指す区域だけでは到底足りません。駅前地区の再開発を含めてこそ完成形になると強く思っています。（*）計画の段階で、周辺団体のサポートをすすめながら、全体の構想を練りゾーンニングやすみわけができると思います。経営上の課題・運営上の課題等々、多くの課題があります。これまで以上に歩みを止めることなく進んでまいりたいと考えております。

（*）当初の会議所提案構想では、能代駅の前に七夕格納展示館、北都銀行駅前跡地にホテル、駅前に能代市の交通拠点センターなどのいろいろなアイデアがありました。

畠町第一地区公共施設構想案

能代市畠町第一地区準備組合

理念

「”わ”の街 はたまち」を中核に置き、私たちは畠町第一地区の再開発に挑みます。

わの街とは、調和し穏やかな和、活力の環、未来の架け橋の輪であり、共助の街です。市の中心部が暗く老朽化した閉鎖店舗、建物、空き地が何年も並んでいる現況の改善は、行政の課題でもあり、わたしたちの街の課題でもあります。連携し、公共活用のための新たな構想を提案するものです。

(1) 産業振興センター

施設目的：起業者、事業者が集い能代の経済振興と産業振興に資する

趣旨：能代市、及び畠町地区は明治期から今でいうベンチャー企業の開店開業の地であった。能代地区ではじめての自転車店、花屋さん。

油屋からガソリンスタンドへ、紙問屋から文具店へ。

島田五空の能代で初めての書店、印刷屋、新聞開業、図書館や学校設立支援。

よそ者ではあったが木都能代の父、井坂直幹の大企業へ続く創業もあった。

もちろん、21世紀の現代では昔の商店街の再興とは意味合いが異なる。

ITを駆使した商材やサービスの開発で全国、世界への売り込みのチャレンジ。

木都能代の遺産を生かした木材製品の開発。

全国的にも高い評価を受ける秋田の教育や、再生可能エネルギーなどを商材としてベンチャー企業を育成する拠点を設けたい。

これらの取り組みは、能代を継続的に元気にする。

施設イメージ：

- ・ビジネス専門書図書館

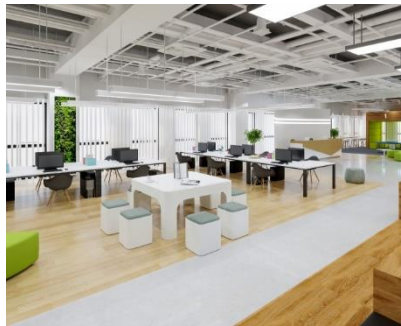
既存の市の一般図書館との違いは、ビジネスというニッチな分野に特化した専門書をそろえた最新書籍や新聞を図書、学習コーナーとして一角に設ける。



※イメージ図

- ・ コワーキングスペース

単純に個人が仕切りを立て孤立して仕事をする場をもうけるという意味でなく、そこで
の集積と交流を通じて新たな創造の場、仕事紹介の場を設けることを主体としていく。



※イメージ図

たとえば、ホームページを制作する人、動画配信をする人、将来のメタバースにチャレン
ジしている人、プログラミングをする人、首都圏にビジネスルートがある人などにつなが
ることにより、より大きな仕事にチャレンジしていくことができる。

「教えましょう、教わりましょう」の精神で。

- ・ 中小ホール、大小会議室、研修室

オープンイノベーションのためには会議室や研修室も必要となる。IT、木材や教育など、
講師を呼んでの勉強会には中小ホールも必要となる。動画での学習コーナーも設置。

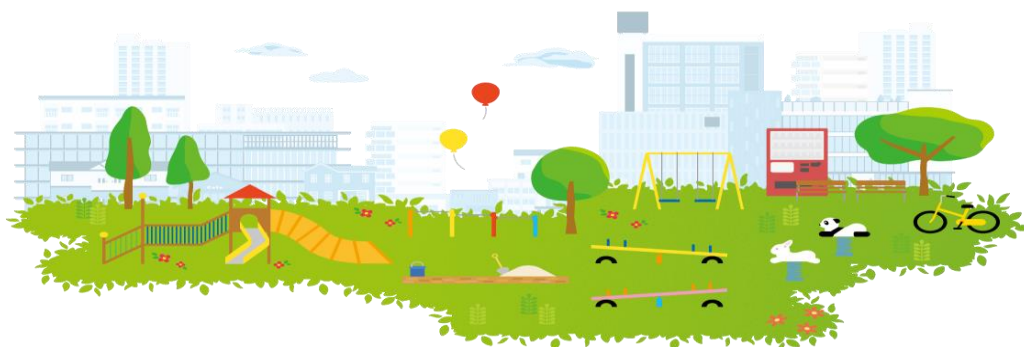
- ・ ビジネスサポーターファクトリー

開業や仕事上の起業相談機関を設け、さらにチャレンジしやすいような機材を設置（有
料・無料）して利用してもらう。

AR・VR、撮影機材、3Dプリンターなど

2) 子育て世代への支援を中心とした施設

施設目的：国としての最大のテーマが人口減少と高齢化です。能代市でも総合計画や第 2 期こどもの未来応援計画で取り上げているように、最上位の課題です。子育て支援のための施設を集めます。



※イメージ図

・ 公営またはそれに準ずる形での子育て世代向けの住宅 30 戸ほどを整備し、徹底的に利便性を追求した子育てに特化した街を目指します。

・ 渋谷モデルのような妊娠期から 18 歳になるまでの伴走型子育て支援

・ 子育て支援センター、診療所、薬局、託児所、保育所、コンビニ、学習塾など

(3) 市民交流施設

施設目的：全世代の能代市民が誰でも気軽に交流して情報交換をする、楽しめる。賑わい創出。

趣旨：ワーキンググループで市民の要望が多かったトップが市民交流施設。各地にたくさん事例がある。

施設イメージ：

・ 市民プラザ

・ 子育て支援施設

- ・市役所機能（中心市街地活性化室）
- ・観光の拠点（能代市観光協会）
- ・バスケットのまち能代（バスケットミュージアム）
- ・キッチンルーム（畠町新拠点、梅内会館での料理教室対応）
- ・ワークショップ、講演会等の会場、カルチャーセンター、多目的スタジオ（演奏、ヨガなど）
- ・イベント広場、市民ギャラリースペース

(4)木都のしろや再生可能エネルギー関連施設

施設目的：木都のしろを代表する施設

施設イメージ：

- ・木質構造建造物・自給できるエネルギーセンター
- ・木の学校、天神工房の拠点
- ・木工教室、木工品展示
- ・木材関連の展示（木高研とタイアップ）

(5)生涯学習センター

施設目的：市民が「学び」の機会を享受できる

趣旨：変化の激しい現代では学生、社会人を問わず、新たな知識、技能を学ぶ場が必要とされている。

施設イメージ：

- ・能代の歴史展示資料館

これも市民に要望の多い施設であるが、保守管理に多額のコストがかかるとなれば、カフェに期間ごとに展示コーナーを設けてもよい。市民にとって町の歴史や文化を知る機会が欲しい。

- ・落ち着いた談話室・会議室・研修室・ホール
- ・学習室

子育て支援の一環として、中学生以上のこどもに勉強スタジオとして自習ルームの場を提供し、学習参考書などの専用図書コーナーを設ける。

(6) マルシェ関連

施設目的：生産者と消費者が出会う場所を創設し、新たなサービスと出会いを生む

施設イメージ：

- ・道の駅
- ・農産物直売所 少なくとも1Fには、現在、畠町で成功している直売所を置きたい。
- ・チャレンジショップ

(7) イベント広場

施設目的：さまざまな活動をしている市民グループによる活動やお祭りなどの年間行事を開催する

施設イメージ：

- ・芝生スペース



※イメージ図

意見集約の結果—畠町にあったらいいな1

<u>あったらいいな</u>	<u>詳細</u>
景観・ロケーションを生かした建物	坂、夕日、風車、花火等を最大限利用する。 人がつながりやすい建物。
外でランチできる建物	みんなで楽しく。 SNS 投稿したくなる建物。
空き家×アートな建物	空き店舗を最大限に活用する。 地域内外が交流しやすくなる。
木造建築物	木都能代を代表するような木造建築物。
稼げるまちづくり	食・ファッション・コト(体験)を販売する。 「外貨」を稼ぐまちづくり。

意見集約の結果—畠町にあったらいいな2

<u>あったらいいな</u>	<u>詳細</u>
お試し出店できるお店	誰でもすぐに出店できるチャレンジショップ。 リサイクルショップなど。
歴史関連の建物	大火から学ぶ歴史カフェ、長屋など。
カフェ・カルチャーショップ	まち自慢ができる店。 誰でも気軽に集まれる店。
「和のまち」	温かさ、人の交流に代表される建物。
エネルギーな木造建築	地熱発電、太陽光発電などを効果的に使った 木造建築物。
屋上に芝生	屋上で子どもが遊べる空間